

耕作放棄地対策をどう進める

関係各課で一体的に連携して進める



坂元 正春 議員

今回、行った耕作放棄地の実態調査で、355ヘクタールの放棄地が確認されたが、どのような手法で解消する考えか。

耕作放棄地再生利用交付金を活用

町長

耕作放棄地の再生利用をより一層促進するため本町にも耕作放棄地対策協議会を設立した。解消策は国の耕作放棄地再生利用交付金を活用して解消に努める。解消後の利用は担い手農家への農地流動化等に資するよう努

める。

放棄地解消計画書はできているのか

坂元議員

農業経営を放棄し荒廃した土地を誰が改善し耕作するのか。放棄地の解消計画書はできているか。

計画書に基づき

町長

国が示した耕作放棄地解消支援ガイドラインに基づき平成23年度までの計画策定である。耕作者の状況などを総合的に判断し、担い手農家へ集積する計画である。

現状のままでは解消は進まない

坂元議員

放棄地を解消する為の

行政指導はどの部署に依存する考えか。放棄地解消の係職員を配置する考えはないか。

担い手支援

協議会の中で

町長

今年度は、3ヘクタールの解消面積を計画している。事務局は農業委員会であるが、農林振興課の担い手支援協議会の中でやっていく。

農地情報等システム化する考えは

坂元議員

本町独自の耕作放棄地の現状、貸したい・売りたい土地の掌握、作物の栽培状況、農地の集積、放棄地その後の解消状況等、農地情報等をシス



耕作放棄地（仮宿地内）

テム化する考えはないか。

県ではしている

町長

農地情報をシステム化する取り組みは、現在、県内の情報を提供できるよう県ではしている。

農林振興課長

本町の農業全般に関わる情報の必要性という事に鑑み、農業委員会、農林振興課、耕地課等と調整会議で検討している。

今後の方向性もはっきり見えないが、導入するに当たっては予算も伴い、最終的には町長の判断を仰ぐことになる。

庁舎内の駐車場の仕方について

坂元議員

役場庁舎内での事故を未然に防止するため、来客されるすべての方々に「出船駐車方式」にする事を周知徹底する考えはないか。又、停める位置の白線引き、役場玄関前のツツジ園の改修の考えはないか。

前向きに取り組む

町長

すでに公用車や職員の手は出船方式による駐車を実施している。今後は来客の方にも看板等を設置して、出船方式の駐車場の周知を図りたい。白線引きも含め改修の計画で前向きに取り組む。

ふるさと納税の活用方法は

坂元議員

ふるさと納税制度が導入されたが、現在、寄付金がいくら集まり、今後

どう活用されるのか。

基金条例の定めに従って

町長

これまで本町には、14名の方から169万円の寄付をいただいた。基金条例に定めている環境施設や観光スポーツ、教育環境の充実に関する事業等に活用したい。

中学校の統合を早める考えはないか

坂元議員

本町の中学校の統合は4〜5年後ということだが、実情から見てもっと早めるべきではないか。

早い段階で進めたい

町長

学校のあり方検討委員会の中では、中学校は早い段階で1校に統合を進めることが望ましい、という答申を得ている。今後は、保護者や地域住民の方と意見交換をして時期等考えていく。